

指宿図書館手作り貸出バッグ大作戦、 様々なテーマのコーナー展示、シビックカフェ事業

鹿児島県 指宿市立指宿図書館

基本データ

所在地	鹿児島県指宿市十二町 2190
職員数	7人
うち司書数	5人
蔵書数	98,551冊
利用登録者数	7,205人
年間貸出冊数	97,616冊
	(児童用図書貸出数 25,590冊)

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】地域の課題解決、まちづくり

【活動のねらい】

(1) 指宿図書館手作り貸出バッグ大作戦

- 図書館が抱える課題を、図書館だけで解決するのではなく、市民のサポートをいただきながら、地域の図書館のことを他人事ではなく自分事と捉え、積極的に図書館運営に関わってもらうこと

(2) 様々なテーマのコーナー展示

- 地域の課題について、担当課や組織と図書館、どちらにとっても事業展開の円滑さにつながり、市民やその家族の支えになること

(3) シビックカフェ事業(鹿児島島の方言を楽しむ会)

- 誰もが自由に入出りができ、アイデアや意見の出しやすい場として環境を整備し、地域づくりに関心のある幅広い市民が気軽に集い、交流し、連携の場となることをめざすこと

取組・活動の概要

(1) 指宿図書館手作り貸出バッグ大作戦

- 図書館バッグが老朽化し使用困難な状態だったのを見かねて市民の一人が手作りバッグを作ってくれたことから始まった。作ってくださったバッグを飾り、感謝の気持ちと「他にも作ってくださる方がいないか」館内に貼り紙をすると、作ってくださる方が増えてきた。
- 素材を提供してくださる方、作ってくださる方、図書館のネームをタグづけしてくれる方と様々な支援の輪が広がった。
- SNS で発信すると鹿児島市内から大きなビニール袋に6袋も持参してくれる方や、全国から送ってきてくださる方もいた。



図書館バッグ(手作り貸出バッグ大作戦)

(2) 様々なテーマのコーナー展示

①アルツハイマー月間コーナー展示

- 長寿支援課の職員との会話の中で、アルツハイマー月間に合わせて連携できないかと相談を受けたのを契機に実施。
- アルツハイマーという病を広く市民に周知するためのコーナー展示やリストを配布した。

②DV・児童虐待に関するコーナー展示

- DV・児童虐待に対する周知と理解促進への協力のための支援。男女協働参画関係団体の代表と研修会の中で話をしたことを契機に開始。

③自殺予防週間に併せてのコーナー展示

- 自殺をテーマにした本や生きることの大切さ、心の悩みの解決に関しての本を紹介。
- 健康増進課から自殺予防週間に併せて連携の相談を受けたことから始まった。

(3) シビックカフェ事業(鹿児島島の方言を楽しむ会)

- 2016年からおこなっている、健幸・協働のまちづくり課の事業。
- 図書館は、「ねらい」を満たす場として設けられた市内5か所の拠点のひとつ。

取組・活動の工夫や特徴

(1) 指宿図書館手作り貸出バッグ大作戦

- 館内の貼り紙を見た地元高校の家庭科教諭が、授業の残り布とヒモ・糸・ボビン等を大量にくださったことで更に作り手が増えた。

(2) 様々なテーマのコーナー展示

- アルツハイマー月間コーナー展示については、パンフレット・のぼり旗・認知症サポーター養成講座・意見箱などは長寿支援課が、選書・リスト一覧表・ディスプレイは図書館が実施。
- DV・児童虐待に関するコーナー展示については、選書・パープルツリーとリボン・パネル・相談箱制作は男女協働参画関係団体が、書籍購入・ディスプレイ・参考文献リスト一覧表配布は図書館が実施。DV防止のための本のラインナップも徐々に揃えつつある。
- 自殺予防週間に併せてのコーナー展示については、図書館と連携することで事業推進が円滑にいった他課との事例を受けての連携依頼だった。図書館は、概要を書いたパネルや意見箱や選書とディスプレイを担当した。児童書から詩など「命」、「生き方」、「いじめ」など関連する幅広い選書をした。

(3) シビックカフェ事業（鹿児島方言を楽しむ会）

- 拠点づくりのための備品購入は健幸・協働のまちづくり課の事業費から充てられている。
- 一部飲食が可能なコーナーも出来、リゾート感あふれるパラソルとテーブルを設置し指宿らしい演出になっている。また13M吹き抜けのコーナーのお昼寝できるリクライニングチェアも利用者に人気である。

取組・活動の成果や今後の展望

(1) 指宿図書館手作り貸出バッグ大作戦

- 「自分が作ったバッグを使う人がいることがうれしい」「捨てきれなかった布がこんなところで活用されてうれしい」などの声があった。
- 図書館を多くの地元住民などと支え合うことでこの取組は現在も続いている。

- SNSの利活用や地元のメディアとの連携も大切だと感じた。現在の図書館バッグの個数は約400個。今後もコンスタントに継続していきたい。

(2) 様々なテーマのコーナー展示

- 今後も、他課との連携を図り、行政各課支援や議員や議会支援のための資料収集図書館としての役割も果たしていきたい。
- アルツハイマー月間コーナー展示では、多くの人に周知でき、その連携が面白いと長寿支援課も評価されており、継続されている。
- 図書館としても長寿支援課が選書した本を購入対象に組み込むことができ、市民にとって必要な本が蔵書になっていくという相乗効果もあった。また、コーナー展示の意見箱に入れられた悩みを長寿支援課職員に手渡し引き継いだという例もあった。図書館は課題を抱えた市民にとってハードルが低く来館しやすいとの声もあった。
- DV・児童虐待に関するコーナー展示は、市民に対する啓発予防や心の癒しになった。
- 自殺予防週間に併せてのコーナー展示では、多くの方が手にとり、いつもあまり借りられない本が借りられた。

(3) シビックカフェ事業（鹿児島方言を楽しむ会）

- 図書館としての幅を広げ、滞在型図書館、仲間と出会うサードプレイスとしての役割もつくれた。
- 新しい出会いの場として緊張感なく集まれるのが公共図書館の利点。本や読書に関わりのあるテーマを持ち、人が集い、知らなかった知識を得る楽しみを体感する。図書館がそんな居場所になり、知り合いが増え、そのことがまちに対する愛着につながり、居住の定住化にもつながる。そんな流れが、図書館にあるということが大切である。